

B 詳細情報 史料所在情報(大分県)

No.	収集	区分	文献・史料名	著者	年代	西暦	所在	内容	備考
1		佐賀関	うき草日記	宮紫暁	1796年の 内容	17960000	大分県立図書館ほか	京都から長崎への旅の途中で佐賀関へ来遊：「うかれ女にうかれて、酒樓に上る人もあり。」「酒樓に人を走らせ、各船に乗移れば、夜への逢瀬に千とせを契る川竹のあそびら、あまた群立て波うち寄る巖の上に走りあがり、別を惜む風情。…」	
2		(大分：浜之市)	浜之市細見絵図		文化10年	18130000		浜之市を描く鳥瞰絵図。周辺の地理と共に市の空間の詳細がわかる。	
3		浜之市・別府・浜脇・下ノ江・佐賀関	府内藩記録		17C後期～		大分県立図書館	国東半島から別府湾沿岸の侠客集団や遊女屋・遊女宿、芸子屋などの実態を示す文書が含まれる(神田、1999年)。	
4		浜之市・別府・浜脇・下ノ江・佐賀関	町役所日記		元禄15～ 明治3年	17020000 ～ 18700000	杵築市立図書館	国東半島から別府湾沿岸の侠客集団や遊女屋・遊女宿、芸子屋などの実態を示す文書が含まれる(神田、1999年)。	
5		別府・浜脇	亀川村庄屋日記		文久2年～	18620000 ～	大分県立図書館ほか	文久3年?4月10日条：流川の三祿宅にて三絃を使っていたのでその旨を禎助に申し置いた件など	
6		別府・浜脇	庄屋役宅日記	佐藤邸彦	慶応3年	18670000	『別府市古文書史料集』第六～集収録	2月12日条：別府の佐伯屋忠右衛門妻とその娘が10日の夜売婦と共に御米船でやって来て明宝丸まで用事向きに来た件 / 3月11・12日条：近頃売婦・湯女の取締がゆるんでいるため届け出再確認の件 / 4月7日条：売婦の件を計屋に申しおきの件 / 同23日条：岩田屋にて別府村の「売婦屋中并田野口村梅太郎・近江屋惣兵衛・浜脇村共引受二而来的」 / 8月22・23日条：浜脇岡田屋の芸子“おつ弥”の帯を石太郎なる者が持ち帰った件について取り調べたことなど	
7		下ノ江	古史捷	未確認	未確認	未確認	未確認	明和2年(1765)にはじめて下ノ江で(城下の商人も)商売開始の旨。城下縣町の山城屋祐助と唐人町の茶屋加兵衛の申し出により漁船問屋開設(ただしすぐに見込み立たず閉鎖)。旅船相手に“給仕の女”がおかれ、“風儀よろしからざる筋も出来”と(白杵市史上巻に引用)	
8		別府・浜脇	豊後別府村浜脇村諸用案内記		明治20年	18870000		芸娼妓抱業者についての記載あり	
9		別府・浜脇	別府温泉記		明治21年	18880000		芸娼妓抱業者についての記載あり	
10			大分県案内		明治35年	19020000	大分県立図書館ほか		
11		別府・浜脇	新別府花柳細見		明治40年	19070000	大分県立図書館	芸娼妓抱業者についての記載あり	
12		(大分：浜之市)	大分小史	大分市役所	昭和6年	19310000	大分県立図書館ほか	かんたんの笠結島丘上にある女郎花塚について：一説に享保年頃浜の市で稼いでいた播州家島の遊女の墓とされること。	

13	(大分:浜之市)	大分市史 上巻	大分市	昭和30年	19550000	大分県立図書館ほか	浜之市に出店していた遊女屋・芸子屋について屋号を含め多少触れる。
14	(大分:魚町本町菜七丁目)	大分今昔	渡辺克己	昭和39年初版	19640000	大分県立図書館ほか	大分見番の所在。置屋のほか私娼の家(赤提灯)も。大正時代に芸妓70名くらい。/かんたん遊廓は明治17(15?)年の築港によって新設の旨など。屋号あり。戦後は赤提灯もかんたんに集められたことなど。ただし戦後は別府に客足を取られ衰微のことなど。
15	佐賀関	佐賀関町史	佐賀関町史編集委員会	昭和45年	19700000	大分県立図書館ほか	『うき草日記』の紹介あり/遊女屋は幕末~明治初年頃が最盛期で、当時250名ほどの遊女があり、本町から下浦港まで一帯がほとんど遊女屋との記述あり/昭和2年頃の貸座敷屋号掲載あり/巻末年表より:明治42年芸妓組合、大正11年料理屋組合、同13年貸座敷組合設立
16	下ノ江	『臼杵物語』	高橋長一	昭和53年	19780000	大分県立図書館ほか	旧遊廓の花屋・栄楽屋、下ノ江節のことなどに多少触れる。
17	(大分:浜之市)	大分市史 中	大分市	昭和62年	19870000	大分県立図書館ほか	浜之市に出店していた遊女屋・芸子屋の文化年間の一例について、人数のみ触れられる。